

交流の充実

相互参観・体験
実践事例の共有

合同研修会・協議会
情報交換会

架け橋期の
カリキュラム検討

保幼小連携・接続のための相互理解の推進 ～小学校の計画訪問に合わせた授業参観を通して～

土浦市

幼児教育と小学校教育の円滑な連携・接続を図るためには、双方の職員がお互いの教育（保育）について理解することが不可欠である。

しかし、昨年度末に実施した、本市における保幼小連携・接続の実態調査の結果、小学校での授業参観を行った幼児教育施設は6割弱、幼児教育施設での保育参観を実施した小学校は4割弱という状況だった。

そこで、小学校での授業参観をさらに活性化するため、市教育委員会が行う計画訪問について全幼児教育施設に日程を知らせ、就学前教育推進員が参観希望を集約した。それにより、容易に授業参観が実施できるようになり、幼児教育施設職員の小学校教育についての理解を深めることができるようにした。

- ・授業参観実施校 小学校15校 義務教育学校1校（全ての市立小学校等で実施）
- ・参観人数（延べ）私立幼稚園 7人（3園）
公立認定こども園 2人（1園） 私立認定こども園 27人（9園）
公立保育所 14人（4園） 私立保育所 98人（16園）
合計 148人（参加幼児教育施設数 33/36園）
- ・準備等 計画訪問における授業参観実施案内（教育委員会→幼児教育施設） 5月16日
参観者通知（教育委員会→小学校へ） 6月4日
参観日程一次案内（教育委員会→小学校へ） 実施約1カ月前
参観日程二次案内（ ” ” ） 実施約1週間前

■ 幼児教育施設職員からの感想

○授業の様子を見て、小学校の子ども達が、先生とのやり取りをする姿や、子ども達が自ら行動していく姿等が参考になった。

○研修会や接続会議だけでなく、実際の子どもの姿を見ることができたのは、保幼小接続を進めていく上で、とても有意義な機会であり、さらに理解を深めることができた。

○自園でも小学校職員を対象とした保育参観を取り入れ、教育力の向上を図る機会を提供することができたらよいと思った。

■ 小学校職員からの感想

○児童の卒園後の様子を見ていただくことで、情報交換の材料になった。本校では計画訪問以前に保幼小連携の学校訪問を実施しているので、面識のある先生方に積極的に参加していただくことができたことと、事前の学校訪問で課題に上がっていたところを計画訪問で見ることができた。

○保幼小の連携の一施策として、幼児教育施設の職員に成長した児童の様子を授業参観していただくだけでなく、さらにスムーズな連携に向けて話し合いが必要であると感じた。



計画訪問を活用し、学校に大きな負担をかけず授業参観を実施できたことは、幼保・小のどちらにとってもプラスになる面が多かった。今後は、相互参観をもとにした協議会の開催を推進することで、さらに相互理解を図っていきたい。

交流の充実

相互参観・体験
実践事例の共有

合同研修会・協議会
情報交換会

架け橋期の
カリキュラム検討

幼児教育と小学校教育の円滑な接続のために ～授業公開・情報交換会の実践を通して～

阿見町



小学校教員と保育者が関わる機会を設定し、互いの様子を見合ったり、情報交換を行ったりすることで、共通理解をもって入学に向けての円滑な接続ができるのではないかと考え、取組を行いました。

参加者：町内小学校教員、町内幼児教育施設教員、教育委員会指導主事、社会教育主事
準備：学習指導案、校舎案内図、阿見町保幼小接続カリキュラム

■「授業公開（小学校）の案内」

幼児教育施設と町内小学校との連携を深めるため、町教育委員会による小学校の計画訪問時に授業を公開することを町内の幼児教育施設にお知らせし、主に学区内の学校を参観していただきました。参観の視点としては、幼児の頃からの成長した様子や気になる点はないかな等を見ていただきました。参観後には、感想をお伝えしてくださる先生方も多くいらっしゃいました。

コロナ対策による規制もなくなったことにより、小学校の教員が幼児教育施設への参観を行う学校も昨年度より増え、「園でどのような教育活動が行われているのかを知ることができてよかった」等の感想が出ていました。

今後も、学校や園での子供たちの生活を互いに参観ができる機会を設定できたらと考えています。

■「情報交換会」

幼児教育と小学校教育の接続のための研修会を2月に実施しました。昨年度より、対面での引き継ぎを行う形式に戻しました。幼児一人一人の様子を小学校へ伝えていただくことにより、学校生活にスムーズに慣れることができるような体制づくりや教育内容に生かすことができています。

なかなかお互いの教職員が交流できる機会が少ないため大変有意義な時間となっています。



■「幼児と児童との交流」

今年度2月に、幼児（年長児）と児童（1年生）の交流を再開する学校があります。小学校で企画・運営を行い、簡単な自己紹介やレクリエーション等を実施する予定になっています。小学校入学に向けて、生活や学習に対する不安が少しでも和ぎ、意欲と期待につなげていきたいです。

今後も、保育者と小学校教員、幼児と児童との交流の充実に向けた取組を検討していきます。特に、小学校と幼児教育施設のそれぞれの教育内容等の情報交換ができる機会が定期的に行えるとよいと考えています。

円滑な接続に向けた保幼小連携

～小学校と幼児教育施設の交流を通して～

高萩市



本市では、相互授業参観や交流活動、情報交換を通して、幼児教育と小学校教育の相互理解を深めている。また、架け橋期の教育について、共通の認識で保幼小が協働することで、相互理解を深め、幼児教育と小学校教育の円滑な接続ができるようにしたい。

■ 幼児教育施設との交流等

- ・ ザリガニ釣り
小学校のビオトープにおいて、小学校1・2年生が中心となりザリガニ釣りを行う。
- ・ 校長先生と握手をする会
校長室において、校長先生と握手をする活動を通して、小学校を身近に感じてもらう。
- ・ 1年生と遊ぶ会
1年生が生活科で作ったおもちゃを園児に紹介し、一緒に遊ぶことを通して交流する。
- ・ あいさつ運動
小中及び地域の方と一緒にあいさつ運動に参加する。
- ・ 給食交流会
小学校の給食と一緒に食べる。

■ その他の取組

- ・ 幼児教育施設訪問・協議
- ・ 計画訪問における相互参観
- ・ コミュニティ・スクールの機能を生かした活動
- ・ 小学校生活指導員、幼稚園介助員合同研修会

**【意見交換から】**

- ・ 保幼小の情報交換をすることが、切れ目のない支援や学び、子どもの安心感につながっていると感じました。
- ・ 架け橋プログラムを市、園、小学校と協力し作成し、スムーズな接続につなげたい。



学校の再編や公立幼稚園の閉園等の変化に対応して、架け橋期のカリキュラムの作成をしていく必要がある。

また、架け橋期にどのような支援をすることがよりよい教育に繋がっていくか、まずは、保幼小の教員及び保育者が互いを理解することが大切である。

これからも継続して協議・改善を図っていきたい。

幼児教育と小学校教育の学びをつなぐ授業参観

八千代町

概要

町内小学校への教育長・計画訪問に併せて幼児教育施設保育者の授業参観を行い、情報交換を行った。幼児教育と小学校教育の学びをつなぐことができるように指導者の連携を推進する。

参加者 幼児教育施設保育者・教育長・指導主事・社会教育主事

準備物 授業参観の開催案内 学習指導案

■授業参観の実施日程と参加した幼児教育施設保育者数

5月 8日(水)	授業参観(川西小学校)	5名参加
6月 5日(水)	授業参観(西豊田小学校)	8名参加
6月14日(金)	授業参観(下結城小学校)	7名参加
6月17日(月)	授業参観(中結城小学校)	9名参加
6月19日(水)	授業参観(安静小学校)	8名参加



■授業を参観した幼児教育施設保育者の感想

- ・グループで友達の話を聞いて、話し合っていることができていて成長を感じた。
- ・なかなか落ち着いて取り組めなかった子が、授業に集中して取り組んでいて安心した。
- ・小学校低学年の授業の中でもタブレットを使う場面があった。児童の操作が手慣れていると感じた。
- ・小学校の授業の内容に園でやっている遊びが繋がっていることがわかった。
- ・特別な支援が必要なクラスでは、児童一人一人に合わせた丁寧な指導をしていた。

まとめ

授業参観を実施し、多くの幼児教育施設保育者に参観していただいた。今後、さらに各小学校と幼児教育施設の先生方が交流し、情報共有を行っていくことで、幼児教育と小学校教育の円滑な接続を図っていきたい。

相互理解と円滑な接続を目指した保幼小連携

～相互授業参観と交流会を通して～

かすみがうら市

幼児期後半から児童期前半において、「霞ヶ浦中学校区保幼小接続プログラム」を念頭に教育活動を行っている。しかし、遊びや生活の基本を中心とする幼児教育から、教科等の学習を中心とする小学校教育への移行では、環境の変化に対応しきれず、スムーズな適応が難しい児童が見られる現状がある。そこで、保幼小での相互授業参観を通して、小学校入学前後の園児の実態の理解を深め、また交流会を通して、小学校での児童の生活の様子を知ってもらうことを目的化することで、園児・児童自身が安心感を得ることができ、保幼小の接続がより円滑に行えるのではないかと考えた。また、保育者側と小学校教員側との両方の視点から協議する場を設けることで、双方の今後の教育に生かしていきたいと考えた。

参加者 第一保育所：1名、美並未来みなみこども園：1名、霞ヶ浦保育園：1名、霞ヶ浦南小：3名、霞ヶ浦北小：1名

■令和6年の保育参観及び授業参観の実践

- 2月 4日 交流会
(霞ヶ浦北小・霞ヶ浦保育園)
- 2月21日 情報交換(霞ヶ浦中学校区)
- 2月27日 交流会(霞ヶ浦南小・第一保育所)
- 6月27日 授業参観(霞ヶ浦北小)
- 7月11日 授業参観(霞ヶ浦南小)
- 8月 5日 保育参観と協議
(美並未来みなみこども園)
- 8月 6日 保育参観(第一保育所)
- 8月 9日 保育参観(霞ヶ浦保育園)



生活科で学習した昔遊びを教えたり、一緒に遊んだりした。

スライドを提示しながら、小学校での生活について紹介した。



◎授業参観

霞ヶ浦北小・霞ヶ浦南小ともに学校の計画訪問時に合わせて授業参観を実施した。霞ヶ浦北小は国語「どうやってみをまもるのかな」、霞ヶ浦南小は算数「かずしらべ」の学習をした。グループで協力して活動したり、Chromebookを活用したりする姿を見ることができた。

◎保育参観

来年度入学予定の園児の様子、園生活の流れを知ることができた。参観後の協議では、保幼小それぞれの感想や課題、入学前までに身に付けたい力等について話し合った。

◎交流会

小学校の生活科の授業に関連し、交流会を行った。児童が学校生活について紹介したり、練習してきた昔遊びを教えたりして、和やかに楽しく過ごした。園児たちは学校生活への不安を取り除くことができ、児童は年上としての自覚をもつなど成長を感じることができた。

■実践における主な意見

○幼児教育施設保育者の意見から

- ・ 実際に園児の様子・行動を見てもらうことができた。授業参観では、児童のその後の成長や頑張りを見ることができて嬉しい。いろいろな場面で、教師の児童への言葉掛けや対応の仕方が参考になった。
- ・ 特別な配慮を要する園児について、保護者に理解を促すのは難しく、小学校入学後に突然指摘されたと感じる保護者も少なくない。

○小学校教員の意見から

- ・ 実際に保育参観をしたことと年度末の引き継ぎで十分に意見交換することができ、その後の小学校生活における指導にも生かすことができた。小学校内での引き継ぎも確実に行えるようにしたい。
- ・ 特別な配慮を要する児童については、入学前から保護者との理解を進めておいてもらえるとありがたい。ただ、園児の発達段階を考えると難しい面もある。

両小学校で行われた交流会では、児童が主体となって活動できた。笑顔で楽しく関わり合う園児・児童の姿に成長や優しさが見て取れ、とても有意義な時間となった。また相互参観では、それぞれの発達段階の様子や過ごし方などから、小学校入学前後の声かけ、活動への取り組み方等見直すことができた。また、配慮を要する児童について、児童だけでなく保護者についてもより詳しい情報交換をすることができた。今後も相互理解をより深めていくために、保幼小での関わりを大切に、円滑に接続を進めることができるようにしていきたい。

幼児教育と小学校教育との円滑な接続に向けた取組

～相互保育・授業参観ならびに保幼小連携協議会の実践～

下妻市

下妻市では、計画訪問に併せて、公立幼稚園教員と小学校教員の相互保育・授業参観を実施している。また、年2回「保幼小連携協議会」を実施し、保幼小接続カリキュラムの改善に向けた検討や情報共有により、幼児教育と小学校教育の円滑な接続を推進している。相互保育・授業参観、保幼小連携協議会のどちらにおいても、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手がかりとして、幼児教育と小学校教育の相互理解を深めている。

相互保育・授業参観参加者⇒ 市内幼児教育施設保育者：7名、市内小学校教員：9名
第1回保幼小連携協議会⇒ 市内幼児教育施設保育者：12名、市内小学校教員：9名、
 市教育委員会：6名、子育て支援課：1名

■「公立幼稚園保育者と小学校教員の相互保育・授業参観」

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の10項目を意識して、幼児教育施設では、遊びがどのように学びにつながっているか、また、小学校では、幼児教育で培ってきた力が学びにどのように生かされているかを視点として、相互参観を行った。

○幼児教育施設保育者の感想から

- ・学習の中で、自分の考えを発表したり友達と伝え合ったりしている様子や、先生の話をよく聞いて学習を進めている姿に成長を感じた。授業参観の後に、協議や情報交換の場があるとよい。
- ・集中力が続かない児童や理解がゆっくりな児童も、1人1台端末を活用して自分のペースで学習を進めていた。特別な教育的支援が必要な児童への適切な配慮がされていて、就学前の情報の共有が大切であると感じた。

○小学校教員の感想から

- ・10項目が凝縮されている活動を見ることができた。遊びの中で、たくさんの学びが育っていることを感じた。先生方が幼児の目線に合わせて話をしたり聞いたりしていて、幼児を大切にしている様子がよく分かった。
- ・1年生に対して、ゆっくりと時間をかけて小学校生活に慣れるよう関わったり、無理なく学習指導をしたりすることが今以上に必要だと感じた。



■「第1回保幼小連携協議会」

以前作成した「下妻市保幼小接続カリキュラム」について、市で作成した案を基に、幼児教育施設職員と小学校教員で見直しを行った。入学後の児童がスムーズに学校生活に適應できるように改善を図ることで、「架け橋カリキュラム」作成に向けての「基盤づくり」となるよう、話し合いを進めた。

○幼児教育施設保育者の感想から

- ・幼児教育施設保育者と小学校教員では、着目する観点が違うものがあることも分かり、双方で相互理解を深めながら、滑らかに接続していくことの大切さを実感した。
- ・小学校に入学しても児童がスムーズに生活していけるよう、幼児教育施設でしっかりと指導していくことと小学校への引継が大切だと感じた。

○小学校教員の感想から

- ・今まで「スタートカリキュラム」にのみ目を向けていたが、「アプローチカリキュラム」を確認したり、幼児教育施設保育者から園の様子を聞いたりすることにより、幼児教育で培った力を小学校でどう生かし、伸ばしていけるかについて考えることができた。また、幼児と児童の交流する機会をもっと増やしていくことで、幼児の就学への不安軽減につなげていきたい。
- ・幼児教育施設の先生方と、階段ではなく、坂道を上っていけるようなスムーズな接続についての話し合いができた。



相互参観では、幼児教育と小学校教育の育ちや学びについて、互いに理解を深めることができた。来年度は、さらに多くの幼児教育施設と小学校の相互参観ならびに協議・情報交換の場の設定をしていきたい。また、令和7年1月開催予定の「第2回保幼小連携協議会」では、県幼児教育アドバイザーを招いて「架け橋カリキュラム」作成に向けた研修を予定している。今後も、相互参観や幼児と児童の交流、「市接続カリキュラム」の作成・見直し等による円滑な接続と連携を推進していきたい。